２０２４年２月ＮＨＫ九州沖縄地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ九州沖縄地方放送番組審議会は、１５日（木）、ＮＨＫ福岡放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２４年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」についての報告があった。引き続き、「２０２４年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。最後に３月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	古荘　貴敏	（株式会社古荘本店代表取締役社長）
副委員長	西野　友季子	（株式会社ニュー西野ビル代表取締役）
委　　員	いのうえちず	（株式会社 suikara　取締役）
	大館　真晴	（宮崎県立看護大学　教授）
	久保田　正廣	（西日本新聞社こどもタイムズ編集長　兼　特別論説委員）
	合原　万貴	（マルマタ林業株式会社　取締役）
	陳　優継	（株式会社 四海楼　代表取締役社長）
	増村　雅尚	（九州産業大学　人間科学部　スポーツ健康科学科　教授）
	吉水　請子	（極東ファディ株式会社取締役商品経営本部本部長）

（主な発言）

＜「２０２４年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　ＮＨＫのコンテンツを文字情報で、ウェブ上で展開するインターネット活用業務について、新年度以降に大きな変化はあるのか。テレビ・ラジオでは放送していない文字コンテンツは参考になるので、私見ではあるが、今後もよいものはよい形で残していただきたい。

ＢＳの「国際報道２０２４」について、放送枠を拡充するとあるが、具体的にどのような拡充をするのか。

Ｅテレの新番組「３か月でマスターする世界史」に注目しているが、３か月の放送を終えたあとはどのような番組が放送されるのか。

（ＮＨＫ側）

総務省の公共放送ワーキンググループでの議論を注視しながら、ネット配信に必要なハード面の整備やコンテンツの中身について、同時並行で議論している。

「国際報道２０２４」については、放送尺を現在の４０分から４分間拡大し、内容についても現地からの中継を行うなど、さまざまな形での強化を検討している。

「３か月でマスターする世界史」の放送期間終了後の番組については、タイトルの通り、３か月で一区切りとなる番組であり、７月以降の番組については現在のところ未定となっている。

○　衛星波で予定されている「大河ドラマアンコール」について、ＢＳとＢＳプレミアム４Ｋで同じ番組を放送するのか。「琉球の風」や「黄金の日日」など、なかなか見ることができない番組を期待している。

（ＮＨＫ側）

「大河ドラマアンコール」については、ＢＳプレミアム４Ｋで放送したあと、時間を置いて２ＫのＢＳでも放送するという編成になっている。過去のドラマ番組については、作品そのものの放送許諾だけでなく、数多くの出演者からも許諾を得る必要があるため、再放送にあたっては確認作業に時間がかかることが多い。今後もできる限り視聴者の要望に応えていきたい。

○　教育番組の拡充はＮＨＫにとって重要なものだと考えている。紙のテキストを購入しながらテレビを楽しむということも大きな魅力となっていると捉えているが、紙のテキストとウェブ上のテキストの配信の併用は今後も続いていくのか教えていただきたい。

（ＮＨＫ側）

デジタルのテキストが広く普及している状況ではあるが、講座物のテキストを廃止する、あるいは縮小する予定はないと聞いている。

○　インターネットを活用したユニバーサル・サービスへの取り組みとして、ＮＨＫオンラインテキスト版のウェブサイトが挙げられているが、このようなサービスも

ニュースなどのテキストと同様に、縮小するなどの影響を受ける可能性はあるのか。ＮＨＫならではの取り組みとして続けていただきたいサービスと考えている。

（ＮＨＫ側）

編成計画の「インターネット活用業務」内に記載されているユニバーサル・サービスは、障害のある方への補完的な業務としての字幕や手話、ＣＧのことであり、今後とも提供していくべきものと考えている。

＜「２０２４年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」について－諮問－＞

○　ことしは世界各地でさまざまな選挙が予定されている。ＮＨＫでも選挙報道の充実をお願いしたい。開票速報については現状の高いレベルを維持しつつ、その時々の選挙の意義や、何を問われている選挙なのか、公共放送ならではの問題意識を強く打ち出してほしい。

九州沖縄の基本方針に安全保障をめぐる諸問題を重視すると明記されたことは、各地が切迫した状況にあることが投影されたものだと考えられ、注目に値する。すでに具体的な反対運動も始まっていて、厳しい取材現場が想像されることから、引き続き踏み込んだ高いレベルの報道を続けていただきたい。

福岡局の平日午後６時台に放送するニュース・情報番組のキャッチコピー「もっと福岡を。」について、「福岡」ということばには多義性があり、福岡県、福岡都市圏、福岡市のどれを指しているのか、捉え方が難しいものである。北九州局との連携も含めて、どのように整理していくのか説明していただきたい。また、英彦山は全国的に注目されるべきコンテンツであり、北九州局が番組やニュースでどのように扱っていくのか、具体的な計画があれば教えていただきたい。

福岡が舞台となる 2024 年度後期の連続テレビ小説「おむすび」では橋本環奈さんが、2025 年度前期の「あんぱん」では今田美桜さんが主人公を演じることが決まっており、ともに福岡出身ということで活躍に期待している。一方で、今田さんの出演者発表では、2,000 から 3,000 人のオーディションによって主役を選んだと報道されているが、かつての連続テレビ小説は無名の新人などが抜擢されて、新しいスターが生まれること自体も番組の魅力の一つであり、番組の意義があったのではないかと考える。昨今はこれまでとは違う主役の選び方をしているように感じるが、その背景について説明していただきたい。

（ＮＨＫ側）

「もっと福岡を。」について、大きなコンセプトとしては福岡県を意識したものである。「ロクいち！福岡」の前半、福岡局と北九州局は同じ放送であり、福岡県の話題をしっかり出していきたいと考えている。九州沖縄地方向けの「おはよう九州沖縄」や「ザ・ライフ」とは異なる福岡県域向けの番組として、現場の職員一人一人がより福岡に寄り添いたいという議論があったことから、このようなキャッチコピーとなった。

（ＮＨＫ側）

英彦山については、昨年末ごろから取材を始めている。現在、上宮の社殿を、建築当時の技術を生かしながら大規模改修している。また、地域の人たちも修験道を復活させようと、さまざまな取り組みを進めている。そのような歴史と地域のつながりについても継続して取材していきたい。取材した内容は「ニュースブリッジ北九州」の中の企画のほか、１分のミニ番組「ふるさと探訪」を放送するなどして伝えていく。また、全国放送や九州沖縄ブロックでの放送に展開したいと考えている。

（ＮＨＫ側）

2025 年度前期の連続テレビ小説「あんぱん」のヒロインについては、オーディションで 3,365 人の応募者の中から、厳正な審査を経て今田美桜さんが選ばれた。確かにかつてに比べ近年は、結果的に著名な俳優の起用が多くなっているかもしれない。

○　編成計画の重点項目については１年後に、各局がそれぞれの項目を実施した結果がどうだったのかを伺いたいと感じた。

○　ことしはインターハイと国民スポーツ大会が九州で行われるということで、スポーツの競技団体は大いに活気づくだろうと考えられる。ただ、スポーツは見ることも魅力の一つであることから、試合の中継を通じて伝えていってほしい。さらに、スポーツを支えることについての魅力もぜひ放送の中に盛り込んでいただきたい。例えば、国民スポーツ大会では地域の皆さんがボランティアとして参加して支えることが、地域を盛り上げることにつながっている。また、各大会がどのような意味を持つのか、なぜその地域で開催されるのかという点についても放送で紹介することで、スポーツを通して県民が元気になれるような番組の制作を期待している。その

ほか、バレーボール女子のパリオリンピック出場権に関わる大会が北九州で予定されていることから、ぜひ放送でも取り上げてほしい。

○　最近は北九州市民にとって、北九州とは広いエリアにさまざまなコンテンツが詰め込まれた土地なのだという気づきが起こってきている最中だと考えている。重点事項の「エリア内各地域の魅力をあまねく取材し丁寧に発信します」ということばは、タイムリーなものだと感じた。ただし、その趣旨が伝わらないと、単にさまざまなものがバラバラに放送され続けていることになってしまうおそれがある。歴史や文化、経済のつながりを丁寧に追っていき、多様な魅力をあまねく発信することで、地域の一体感の醸成につなげていただきたい。

○　どの局も地域の魅力を発信するという点が重点事項に盛り込まれていた九州は一つの大きなエリアであることから、九州全体のネットワークを生かして各局が連携し、九州全体を巡るような番組やイベントなどの企画を実施すれば、観光客やインバウンドの増大にもつながるのではないかと感じた。鹿児島については、防衛力強化という部分で、自衛隊関連の島々の報道について、今後も引き続き丁寧な取材を行っていただきたい。また、鹿児島では市長選と知事選が予定されていることから、若い世代の人たちにもっと興味を持っていただけるような報道を期待している。災害に関しては、引き続きデジタルと放送とを駆使して、これからもリアルタイムでの情報提供を続けていただきたい。

○　各局の重点事項の説明から、各県それぞれが安全保障の問題を抱えているという共通点を知ることができた。共通テーマが存在するのであれば、九州全体の問題として取り上げてみてもおもしろいのではないかと感じた。また、そのような問題を地域の問題としてだけ捉えるのではなく、日本全体の中でどういう位置づけになるのかという観点で、展開してもよいのではないか。

○　九州沖縄で大きな問題となっている大雨や台風などの自然災害について、気候変動も原因として大きいと考えていることから、気候変動に関する番組も積極的に作っていただきたい。大分は数多くの資源があり、取材するのも大変な状況かと思うが、多様な文化が混ざり合っている点を中心として、増加してきているインバウンドの旅行者たちにもっと情報を発信していただきたい。また、大分県は水害が多い地域であることから、防災意識を高める番組を制作してほしい。さらに、湯布院という観光地に自衛隊駐屯地があることから、安全保障について扱った番組についても制作してほしい。

○　安全保障について大きな柱として取り上げていただくのは、非常によいことだと感じた。防衛省や政府の広報になるのではなく、「信頼されるジャーナリズム」としての報道を期待している。安全保障をめぐる問題は、どのような視点から語るかが最も肝要であり、地域に根ざした視点から、全国に関連した問題とする視点も必要だと考える。

選挙報道については、「みんなの選挙」などウェブで発信されている選挙報道が分かりやすく、高く評価している。有権者の判断のよりどころとなる情報を、分かりやすくまとめた形で伝えていただきたい。日々の報道だけでは情報が断片的になってしまうことから、まとまった形で、好きなときにアクセスして見られるような状態になっているとよいと感じた。

○　地域の方しか関心がないような、地域に根ざした話題を突き詰めるということは、視聴者にとって魅力のあることなのではないかと感じた。そのような方向性を各局でもぜひ、推し進めていただきたい。

○　視聴者が欲している情報・関心を持っているテーマにずれが生じないよう、地域の視聴者の声をより多く聞いていってほしい。そして、彼らと一緒になってその地域のことを考えていく番組、ＮＨＫにしか作れない番組の制作を期待している。

○　諮問された「２０２４年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」については、各委員の意見の趣旨が番組編成に生かされることを前提に、原案を可とし、答申をしたい。

○　異議なし。

（ＮＨＫ側）

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、３月の審議会で編成計画についてご説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１月２７日（土）のＮＨＫスペシャル「“学校”のみらい　不登校３０万人から考える」を見た。大人だけの番組ではなく、子どもと一緒に視聴して考えていけるような、堅苦しくならない番組の工夫がたくさん散りばめられている印象だった。日本にとって参考になりそうな海外の事例や、新しい取り組みをしている日本の事例の

紹介もあり、日本の教育の現状を知ることができた。また、考えていかなければならない問題提起もあり、多くの方に見ていただきたい番組だと感じた。教師の方々がこれからの日本の課題にどう向き合っていくのか、継続取材して番組にしていただきたい。子育て世代にとって、さまざまな選択肢を知ることができるように、さらに掘り下げた内容を期待している。

○　１月２９日(月)から２月２日(金)の福岡局「ロクいち！福岡」と北九州局「ニュースブリッジ北九州」の共同で制作された「筑豊ＷＥＥＫ」を見た。まとまって取り上げられる機会の少ない筑豊エリアを取り上げていて、非常に意欲的で見応えのある番組だった。一方で、筑豊エリアの位置関係が分かりにくく、その都度地図で示すなどの工夫があるとよかったのではないか。また、田川市のしっくい工場の話題については、石灰岩の地学的な成り立ちや、実際の石灰石の採掘現場の映像が挿入されると、全体的に町のことが分かってよかったのではないか。ほかにも、香春町のスケートボートパークについては、廃校後、なぜスケートボードの練習場になったのかなど、もっと掘り下げてほしかった。特に、人口減による廃校の活用事例については、エリアごとでの紹介よりも三つを同時にまとめて紹介したほうが、まちづくりに取り組む人たちの力強さが伝わったのではないか。炭鉱が栄えていた頃のライブラリー映像の部分は、人口動態に関する情報などの詳細な情報を加えてほしかった。さらに、アナウンサーのコメントについては、「私も○○してみたいと思いました」という内容がやや多かった印象で、もう少しバランスのよいコメントになるとよいのではないかと感じた。要望が多くなったが、このような番組は地域の人たちの気持ちを盛り上げてくれるものであり、今後もぜひ続けていただきたい。

○　１月２９日(月)のかごスピ「検証　オスプレイ墜落事故～南西防衛強化の中で～」（総合 後7:30～7:55 鹿児島県域）を見た。オスプレイの事故が起こった背景、鹿児島は中国に対する防壁として位置づけられていること、住民の島外への避難という国民保護に関する流れという３点で番組が構成されていて、分かりやすく全体を把握することができた。元アメリカ軍の方が、「有事の際には鹿児島も軍事作戦に含まれる」というコメントをしていたことには危機感を感じた。番組内で紹介された地図を見て、鹿児島は特に離島などに自衛隊の駐屯地が非常に多いことが分かり、実際に島で軍事訓練が行われていることを島の人々がどのように受け止めているのか知りたくなった。鹿児島には美しい島々がある一方で、そのような島々で防衛強化がなされていることに対して複雑な思いを感じた。今後も多角的な視点から取材を続けていただき、これらの問題を自分事と感じられるような報道、番組を期待し

ている。

○　２月２日(金)のザ・ライフ「追跡　別府ひき逃げ事件」を見た。１年７か月にわたる長期取材の集大成であったということだが、事件の早期の解決を願ってやまない。引き続き取材をお願いしたい。

２月１０日(土)に再放送されたうまいッ！「干潟が育むかき！　～大分・中津市～」（総合 午前4:35～4:58)を見た。アサリの一大産地だった中津干潟の収穫量が年々減少し、１０年前からかきの籠養殖を、オーストラリアから導入して行っているということを初めて知った。なぜおいしいかきができるのかという説明も分かりやすかった。出演者の當間ローズさんのカキの味の感想を聞いて漁師の方が喜んでいた場面はとても印象的だった。

○　２月２日(金)のザ・ライフ「追跡　別府ひき逃げ事件」を見た。番組全体としては、これまで報道されていない事件や容疑者の背景に触れていて、非常によく取材されていた。一方で、番組の目的が事件の背景を探ることなのか、逃亡中の容疑者の早期逮捕の施策について考えることなのかが、短い放送時間の中に詰め込みすぎた印象で整理が行き届いておらず、メッセージが伝わりにくかったように感じた。容疑者の高校時代の友人の証言や、容疑者が留置場で「人ともめたら事故を装ってはねたらいい」という話を聞いてうなずいていたという証言は興味深かったが、それらの証言を補強する情報がなかったがために、受け手の想像に任せ過ぎている印象を受けた。特に、全国的に重要指名手配というものに関心が高まっているタイミングであり、容疑者の耳に特徴があることや年を取っても声は変わらないこと、ＳＮＳによる呼びかけなどの紹介はトレンドを押さえていてよかったが、そういった指名手配犯の検挙が目的の番組なのか、事件そのものや容疑者の背景を考える番組なのかという点をより整理してほしかった。

（ＮＨＫ側）

番組の目的が事件そのものの背景を探ることなのか、指名手配犯の検挙なのかという点について言えば、その両方を目的とした番組であった。番組内で紹介した証言は、数多くの情報を持った上で取捨選択した結果だが、背景を掘り下げる部分が不足していたのではないかという指摘については重く受け止め、今後に生かしていきたい。あくまで指名手配の容疑者ということで、最大限配慮しなければならない点も踏まえたうえで、遺族の思いにもしっかりと配慮しながら、引き続き取材を継続して伝えていきたい。

（ＮＨＫ側）

スタジオにいた女性の記者は入局後、大分局に配属されてからすぐにこの事件が発生したこともあり、事件の解決を願う気持ちを強く持っている。ただ、いろいろと取材を重ねていく中で、なかなか情報が取れない苦しさがあったと聞いている。今回の番組は、大分局と福岡局がともに支え合いながら、番組制作を進めていった。

○　２月９日(金)の＃てれふく「レジェンド食堂よ　永遠に！」を見た。内容が盛りだくさんで、おいしそうな料理の映像をもう少し見たいと感じるなど、番組の尺が足りないという印象を受けた。また、ホットドッグ屋さんに並んでいる行列を「人だかり」と表現していたが、「長蛇の列」といった表現の方が適切ではないかと感じた。ラーメン屋の場面では、スープの塩分を減らしたというエピソードで、なぜ塩分を減らしたのかも描いてほしかった。ハイスピードカメラで捉えた湯切りの映像など、ＮＨＫならではの映像は非常に美しく見応えがあった。天ぷらの映像も大変すばらしかったが、この場面は実際に屋台で撮影したものなのかを教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

天ぷらの映像については、スタジオに撮影機材を持ち込み、透明の耐熱用のガラスの中で天ぷらが揚がっている様子を、側面から８Ｋカメラで撮影したものである。今回の番組は、ハイスピードカメラや小型カメラなど、ほかにも８Ｋのさまざまな撮影技術を駆使して、福岡のグルメを撮影することを目指した。

（ＮＨＫ側）

放送尺が足りない印象だったという点であるが、２月２５日(日)にＢＳ８Ｋで５９分尺の放送を予定している。また、３月３０日(土)にＮＨＫ福岡放送局のよかビジョンホールにて、８Ｋビジョンによる上映会も検討している。

○　２月９日(金)の長崎スペシャル「黒崎煌代　心も体もアッツアツ　冬の雲仙市」を見た。雲仙市の取材であったが、雲仙温泉ではなく、小浜温泉の周辺が紹介されていて、温泉とグランピングを掛け合わせた「オンピング」の施設が小浜や雲仙市にあるということなど、長崎に住んでいても知らないような情報があってよかった。また、在来種野菜という地元に根づいた野菜を生産、販売している場所に、人が多く集

まっているという取材があり興味深かった。在来種野菜や温泉の蒸し料理などを主軸に、料理を題材にした番組もできるのではないかと思った。「ブギウギ」に出演している俳優の黒崎煌代さんは、１年前に俳優としてデビューされたということだが、本当に自然体で取材をされていて好感が持てた。

○　２月９日(金)のプラスみやざき「ザ・穴場ツアー　神話のふるさと　宮崎北部の旅」を見た。お笑い芸人のＵ字工事さんのトークで、親しみやすい雰囲気になっていて、硬くなりがちな話題を分かりやすく説明することでその魅力がよく伝わっていた。一方で、紹介された場所が高千穂やあまてらす鉄道、天安河原、天岩戸神社という有名観光地がメインであったことから、番組タイトルである「穴場ツアー」ということばとは、ややかけ離れているようにも感じた。

○　２月１１日(日)に再放送されたＮＨＫスペシャル「まちづくりの未来～人口減少時代の再開発は～」(総合 前1:30～2:24) を見た。福岡の天神ビッグバンなど、まちづくりの事例が豊富で情報量が多い一方で、分かりやすくまとめられていておもしろかった。特に、下北沢の北沢デザイン会議という地域の人たちが参加する会議体の事例では、活動に地域住民を巻き込む方法が巧みかつ丁寧で、興味深く見た。最近の若者は社会参加する意識が非常に強いということで、下北沢のまちづくりに若い人も参加しているというという点もよい視点で、取材も丁寧にされていて、日本全国各地の課題を抱えている地域のまちづくり関係者や行政の方にぜひ見てほしいと感じた。ある時はふかんから全体を見たり、ある時は特定の事例に注目したりと、構成を考える上での視点の移動も計算されているように感じられてよかった。

○　２月１１日(日)の民謡魂　ふるさとの唄「熊本県　芦北町」(総合 後 3:05～3:49) を見た。熊本県出身の歌手である田中祥子さんの歌唱もすばらしく、内容もおもしろい番組だった。熊本で昔から歌い継がれている民謡「おてもやん」ができた背景について、俳優の駒井蓮さんやお笑い芸人さんのかなでさんによる劇を通して伝えていてよかった。民謡の背景を追究するのは、地方の放送局ならではの面白い切り口だと感じた。

（ＮＨＫ側）

ご意見は今後の番組制作の参考にさせていただく。ネット時代の中での放送の在り方という点については、公共メディアとして今後も強く意識していかなければならないと考えていることから、視聴者の判断のよりどころになるような情報をまとめて発信する

姿勢を貫いていきたいと考えている。

ＮＨＫ福岡放送局
番組審議会事務局